

平成 26 年度 メディカルサポート部 サッカーメディカルサポート活動報告

1. 活動内容

1) メディカルサポート

以下の大会においてメディカルサポートを実施した（表 1）： 前橋市中体連サッカー大会（3 大会全 60 試合）、群馬県中体連サッカー大会（3 大会全 69 試合）、群馬県高体連サッカー大会（4 大会 1~3 回戦まで全 182 試合）、全国クラブチームサッカー選手権大会の本部でのメディカルサポート。

表 1. 平成 26 年度全試合数、対応件数、スタッフ数まとめ

26年度	中学		高校	計
	市	県		
試合数	60	69	182	311
対応件数	171	154	353	678
スタッフ数	28	40	83	151

2) 新人スタッフ教育活動

サッカーメディカルバックアップシートを作成し、現場での見学、実施の確認を行った。さらに、運営スタッフ全員がメインスタッフで良いと判断した場合に、アシスタントスタッフからメインスタッフへ移行するという手順で行った。

今年度は 12 名がサッカーメディカルサポートへ新たに参加し、そのうち 5 名がメインスタッフに移行した。また、昨年度アシスタントや見学であった 8 名（アシスタントスタッフ 4 名、見学者 4 名）がメインスタッフへ移行した。よって今年度は 13 名がメインスタッフへ移行した。

3) 勉強会

見学者やアシスタントスタッフを対象に、サッカーメディカルサポートの流れについての説明、足関節に対するテーピングの技術練習を実施した。

4) 学術活動

ピッチ環境や受傷機転に関して更なる調査を実施し、平成 26 年度は関東甲信越ブロック理学療法士学会において、「4 年間の群馬県サッカーメディカルサポートにおけるスタッフ数の動向～スタッフ育成の取り組みに向けて～」という演題で投稿し発表を行った。

2. 前橋市中学校体育連盟サッカー大会におけるメディカルサポート報告

1) メディカルサポートの概要（表 2）

参加大会は以下の 3 大会、全 60 試合であった： 前橋市中学校春季大会（以下、春季大会：5 日間 21 試合）、前橋市中学校総合体育大会（以下、夏季大会：5 日間 20 試合）、前橋市中学校新人大会（以下、新人大会：5 日間 19 試合）、参加スタッフ数は延べ 28 名、対応数は延べ 44 校、76 選手、171 件であった。

表 2. メディカルサポート概要

大会日程		試合数	スタッフ人数	対応数(延べ)		
				学校数	選手数	件数
春季大会	(4/26~5/4)	21	9	19	42	96
夏季大会	(7/5~7/20)	20	9	13	17	40
新人大会	(9/13~9/27)	19	10	12	17	35
計		60	28	44	76	171

2) 傷害部位および傷害内容

傷害部位として、傷害総数 76 件中、下腿が 14 件（18%）と最も多く、次いで足関節が 11 件（14%）、足部・足趾が 7 件（9%）であった（図 1）。

傷害内容として傷害総数 76 件中、打撲が 29 件（38%）と最も多く、次いで骨折が 11 件（14%）、足関節捻挫が 8 件（11%）であった（図 2）。

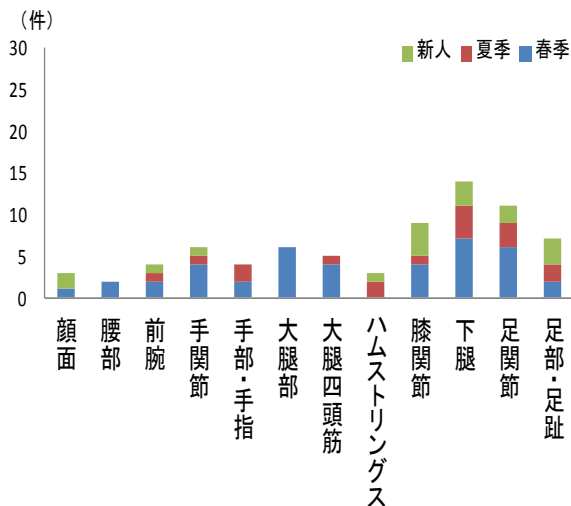


図 1. 傷害部位別対応件数（件）

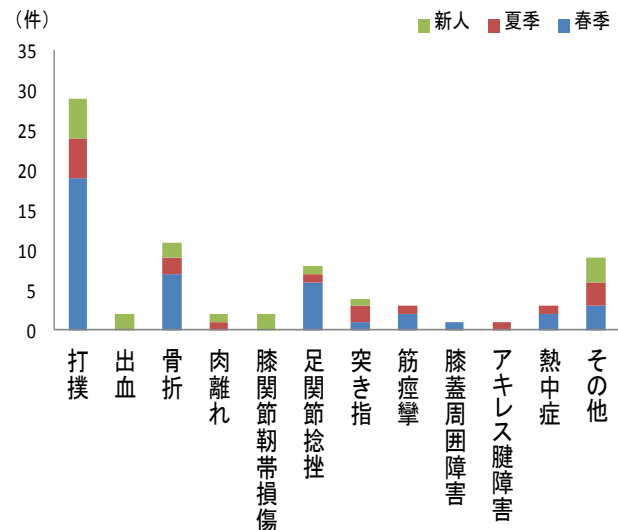


図 2. 傷害内容別対応件数（件）

3) 受傷機転

傷害総数 76 件中、外傷による受傷は 60 件（79%）、Overuse による受傷は 4 件（5%）と、外傷による受傷が多かった（表 3）。

また傷害部位別でみると、腰部では Overuse での受傷が多かった。腰部以外の部位に関しては、外傷による受傷が多くを占めた（図 3）。

表 3. 受傷機転別対応件数（件）

	外傷	Overuse	その他	計
春季大会	33	2	7	42
夏季大会	11	2	4	17
新人大会	16	0	1	17
計	60	4	12	76

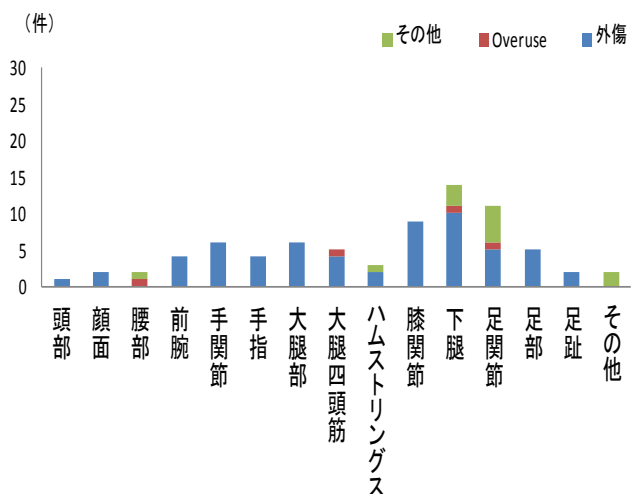


図 3. 受傷機転による傷害部位別対応件数（件）

4) サポート内容

対応時期として、対応総数 171 件中、試合後が 106 件（62%）と最も多く、次いで試合前が 49 件（29%）であった（表 4）。

対応内容として、対応総数 171 件中、テーピング実施が 47 件（27%）と最も多く、次いで傷害確認・指導が 40 件（23%）、アイシング指導が 25 件（15%）であった（表 5）。

対応時期別の対応内容としては、試合前はテーピング実施が最も多く、試合後はアイシング実施、傷害確認・指導が多かった（図 4）。

表 4. 対応時期別対応件数 (件)

対応時期	春季	夏季	新人	計
試合前	27	11	11	49
試合中	1	3	7	11
ハーフタイム	2	2	1	5
試合後	66	24	16	106
計	96	40	35	171

表 5. 対応内容別対応件数 (件)

	春季	夏季	新人	計
テーピング実施	25	14	8	47
テーピング指導	0	0	1	1
アイシング実施	10	9	5	24
アイシング指導	17	5	3	25
ストレッチング実施	10	2	0	12
ストレッチング指導	9	2	1	12
止血処置	0	0	3	3
徒手的治疗	0	0	2	2
傷害確認・指導	23	7	10	40
救急搬送	1	0	0	1
その他	1	1	2	4
合計	96	40	35	171

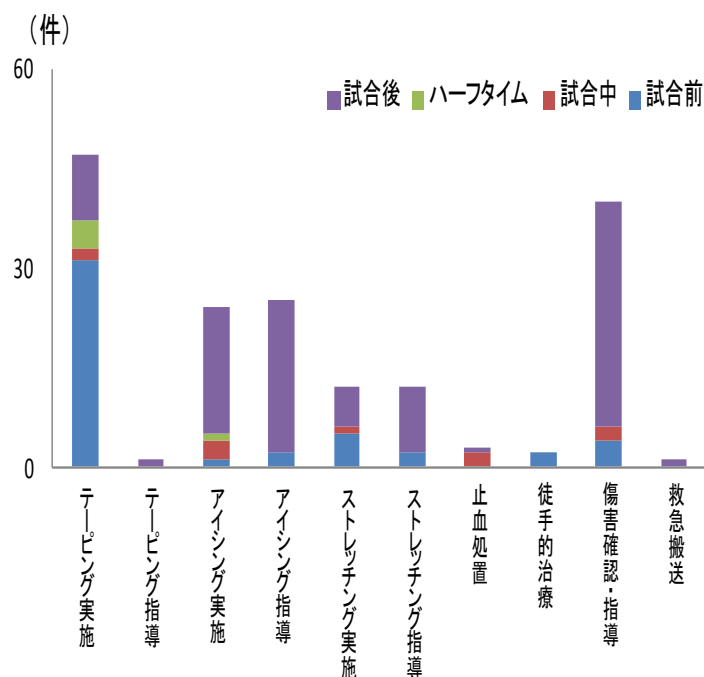


図 4 対応時期別対応内容 (件)

5) テーピング実施部位および目的

3大会におけるテーピングの実施は、48件であった。その目的として、症状緩和が37件(77%)と大半を占め、応急処置が9件(19%)であった(表6)。

テーピング部位としては、足関節が17件(35%)と最も多く、次いで下腿が7件(15%)、手関節および手部・手指、膝関節が6件(13%)であった(図5)。

表 6. テーピング目的別対応件数 (件)

テーピング目的	春季	夏季	新人	計
予防	0	1	0	1
症状緩和	18	11	8	37
応急処置	6	2	1	9
修正・追加	1	0	0	1
合計	25	14	9	48

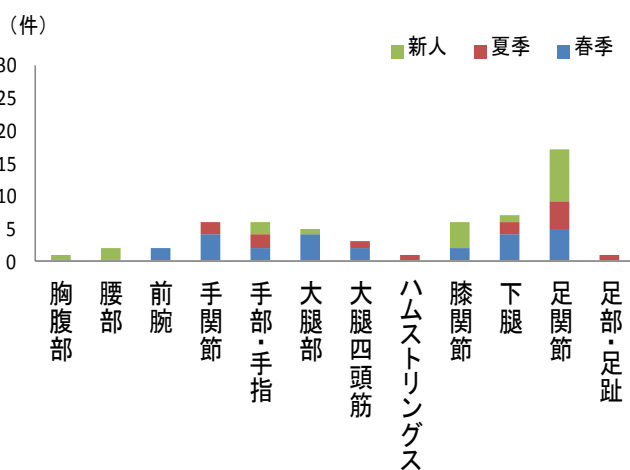


図 5. テーピング部位別対応件数 (件)

6) まとめ

今年度のメディカルサポートにおける対応総件数は、昨年度と比較して約80件減少した。対応した傷害部位は昨年度と同様下肢に多く、特に下腿、足関節、足部・足趾が多かった。一方、傷害内容は打撲、骨折、足関節捻挫が多く、外傷に起因すると考えられる傷害が多くを占めた。実際に受傷機転をしてみると、外傷による受傷は60件と傷害総数の79%を占め、昨年度の54%を大きく上回った。それに対して、Overuseによる受傷は全大会を通して4件のみであった。このことから、今年度の対応総件数が減少し

た要因の1つとして、Overuse による受傷が減少したことが考えられる。

対応内容は昨年度と同様テーピングが最も多かったが、次いで傷害確認・指導が多い結果となった。対応時期に関しても、試合後の割合が増加しており、選手の自己管理に対する意識の増加が伺える。

今後も、外傷による受傷が多くを占めることが予想できる。我々メディカルスタッフは、適確な評価や応急処置、症状緩和に関する知識・技術を十分に身につけておく必要がある。

また、これまで以上に運動指導の重要性を理解し、選手の自己管理能力の向上を図っていくよう努めていく必要がある。

3. 群馬県中学校体育連盟サッカー大会におけるメディカルサポート報告

1) メディカルサポートの概要（表 7）

参加大会は以下の3大会、全69試合であった：群馬県中学校春季大会（以下、春季大会：3日間23試合）、群馬県中学校総合体育大会（以下、夏季大会：4日間23試合）、群馬県中学校新人大会（以下、新人大会：4日間23試合）、参加スタッフ数は延べ40名、対応数は延べ53校、76選手、154件であった。

表 7. メディカルサポート概要

大会日程		試合数	スタッフ人数	対応数(延べ)		
				学校数	選手数	件数
春季大会	(6/1～6/8)	23	12	18	24	54
夏季大会	(7/29～8/1)	23	16	14	24	45
新人大会	(10/18～10/26)	23	12	21	28	55
計		69	40	53	76	154

2) 傷害部位および傷害内容

傷害部位として、傷害総数76件中、下腿が14件（18%）と最も多く、次いで足関節が9件（12%）、股関節が8件（11%）であった（図6）。

傷害内容として、傷害総数76件中、打撲が24件（32%）と最も多く、次いで肉離れ9件（12%）、足関節捻挫7件（9%）であった（図7）。

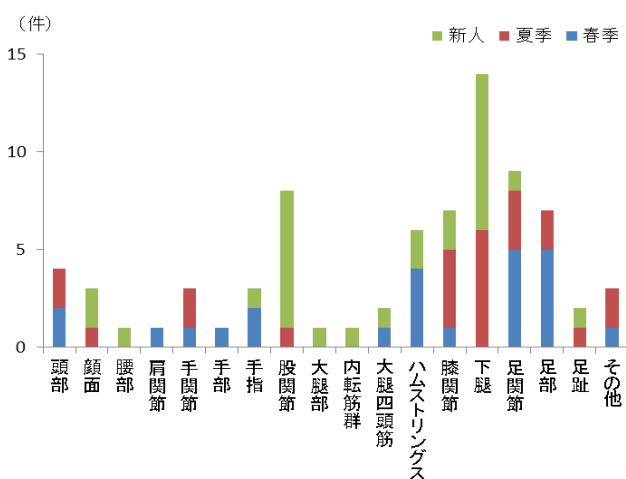


図 6. 傷害内容別対応件数（件）

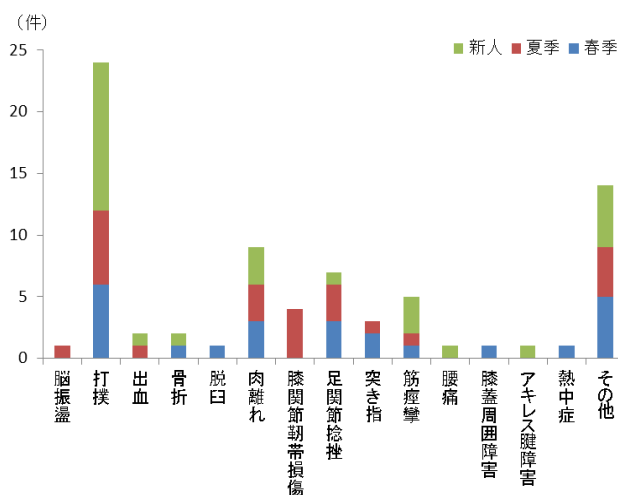


図 7. 傷害内容別対応件数（件）

3) 受傷機転

傷害総数76件中、外傷による受傷は48件（63%）、Overuseによる受傷は15件（20%）と、外傷による受傷が多かった（表8）。

また傷害部位別でみると、腰部、股関節ではOveruseでの受傷が多く、それ以外の部位では外傷での受傷が多かった。ハムストリングスは外傷・Overuseとも同数であった（図8）。

表 8. 受傷機転別対応件数（件）

	外傷	Overuse	その他	計
春季大会	18	3	3	24
夏季大会	13	5	6	24
新人大大会	17	7	4	28
計	48	15	13	76

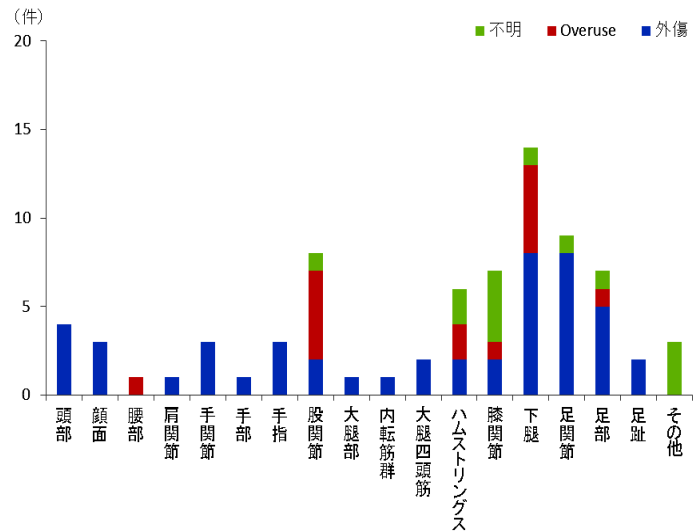


図 8. 受傷機転による傷害部位別対応件数（件）

4) サポート内容

対応時期として、対応総数 154 件中、試合後が 69 件（49%）と最も多く、次いで試合前が 52 件（34%）であった（表 9）。

対応内容として、対応総数 154 件中、テーピング実施が 53 件（34%）と最も多く、次いでアイシング実施 32 件（21%）、ストレッチング指導が 17 件（11%）であった。3 大会共通してテーピングでの対応が最も多かった（表 10）。

対応時期別の対応内容としては、テーピング実施が試合前で 38 件と最も多かった。試合後ではアイシング指導・実施、ストレッチング指導・実施などが多く、試合前と試合後の対応が多くを占めていた（図 9）。

表 9. 対応時期別対応件数（件）

対応時期	春季	夏季	新人	計
試合前	21	12	19	52
試合中	7	10	12	29
ハーフタイム	0	2	2	4
試合後	26	21	22	69
計	54	45	55	154

表 10. 対応内容別対応件数（件）

対応内容	春季	夏季	新人	計
テーピング実施	18	17	18	53
テーピング指導	0	0	0	0
アイシング実施	15	12	5	32
アイシング指導	6	4	4	14
ストレッチング実施	3	1	11	15
ストレッチング指導	3	4	10	17
止血処置	0	0	1	1
徒手的治疗	1	0	3	4
傷害確認・指導	6	3	1	10
救急搬送	0	2	0	2
その他	2	2	2	6
合計	54	45	55	154

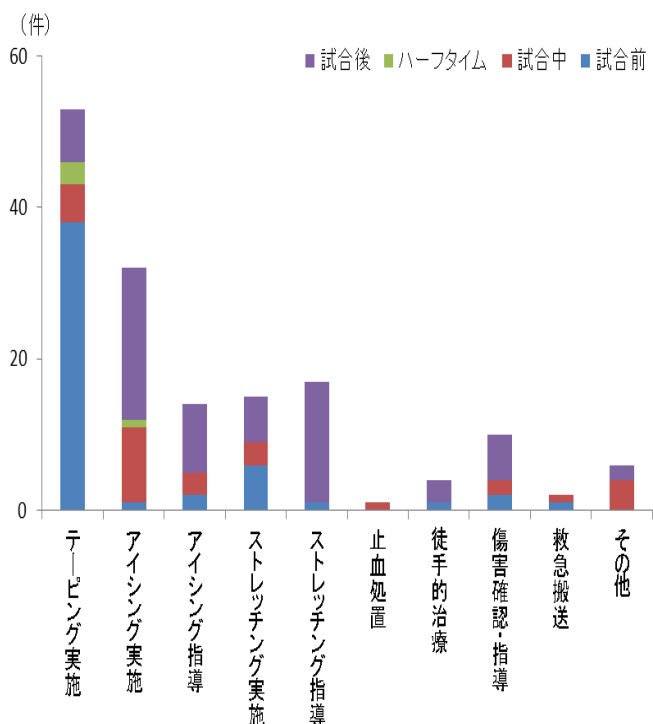


図 9. 対応時期別対応内容（件）

5) テーピング実施部位および目的

3大会におけるテーピング実施は、53件であった。その目的としては、症状緩和が44件（83%）と大半を占め、修正・追加が4件（8%）であった（表11）。

テーピング部位としては、下腿が10件（19%）と最も多く、次いで足部が8件（15%）、足関節は7件（13%）であった（図10）。

表 11. テーピング目的別対応件数（件）

テーピング目的	春季	夏季	新人	計
予防	2	0	1	3
症状緩和	14	16	14	44
応急処置	0	1	1	2
修正・追加	2	0	2	4
合計	18	17	18	53

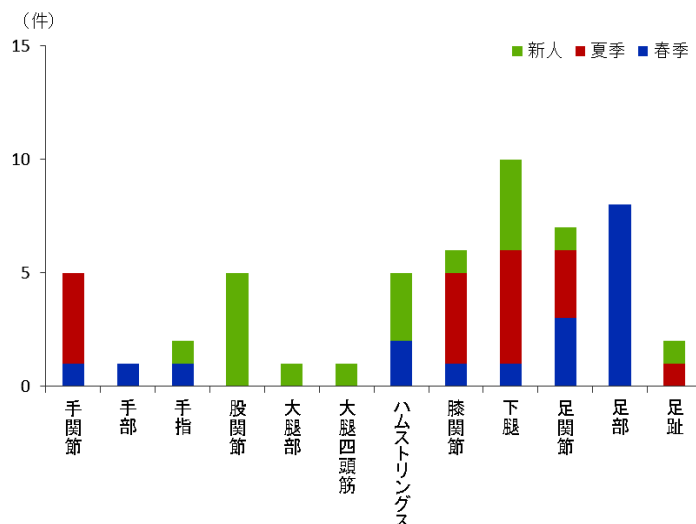


図 10. テーピング部位別対応件数（件）

6) まとめ

対応のあった傷害は下肢が多くを占め、特に下腿と足関節、股関節が多かった。傷害内容は、打撲、肉離れ、足関節捻挫が多かった。受傷機転は外傷が約6割を占めた。これは例年通りの結果となった。

傷害内容に関しては、下腿や足関節においては外傷が多くを占めており、打撲や足関節捻挫が多いことが考えられる。一方、腰部や股関節においては **Overuse** での受傷が多かった。両部位とも不良姿勢や不良動作の繰り返しによって障害が生じやすい部位であり、症状緩和に対する対応だけでなく、姿勢や動作指導を行っていくことが必要であると考ええる。また、上肢に関しては全件外傷であり、転倒した際の手の付き方や受け身の取り方の不十分さが影響している可能性が考えられる。

対応内容に関しては、テーピング実施が最も多く、試合前での対応が多かった。テーピング対応部位では下腿や足部、足関節が多かった。これは例年通りの結果であり、メディカルサポートを実施するにあたりテーピングの技術向上は必要であると考えられる。また、昨年と比較するとアイシング実施の件数が増加していた。これは昨年と比較し、外傷による傷害件数が増加したことが要因と考えられる。外傷後の適切な対応は、その後の回復に大きく関与することから、適切な応急処置に対する知識・技術の向上が必要と考えられる。

4. 群馬県高等学校体育連盟サッカー大会におけるメディカルサポート報告

1) メディカルサポートの概要（表12）

参加大会は以下の4大会、1～3回戦までの全182試合であった：群馬県高校総合体育大会（以下、県総体）、全国高校総合体育大会群馬県予選（以下、インハイ）、群馬県高校サッカー選手権大会（以下、選手権）、群馬県高校サッカー新人大会（以下、新人戦）、参加スタッフ数は延べ83名、対応数は延べ107校、201選手、353件であった。

表 12. メディカルサポート概要

大会日程	試合数	スタッフ数	対応数(延べ)		
			学校数	選手数	件数
県総体 (4/29,5/3,5)	43	19	30	64	101
インハイ (6/1,7,8)	45	16	22	32	57
選手権 (8/30,9/6,13)	45	23	39	78	144
新人戦 (1/17,18,24)	49	25	16	27	51
計	182	83	107	201	353

2) 傷害部位および傷害内容

傷害部位として、傷害総数 201 件中、足関節が 57 件 (28%) と最も多く、次いで膝関節が 30 件 (15%)、腰部が 10 件 (7%) であった (図 11)。

傷害内容として、傷害総数 201 件中、足関節捻挫が 49 件 (24%) と最も多く、次いで打撲が 37 件 (18%)、肉離れが 16 件 (8%) であった (図 12)。

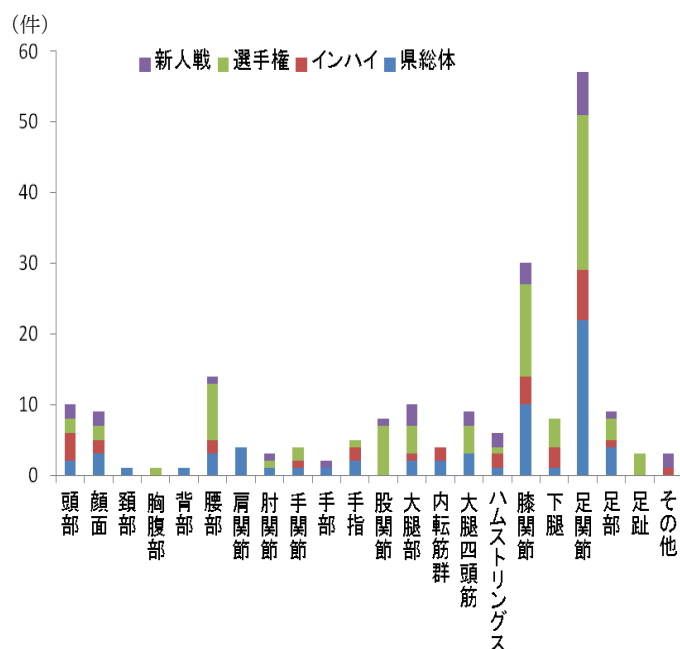


図 11. 傷害部位別対応件数 (件)

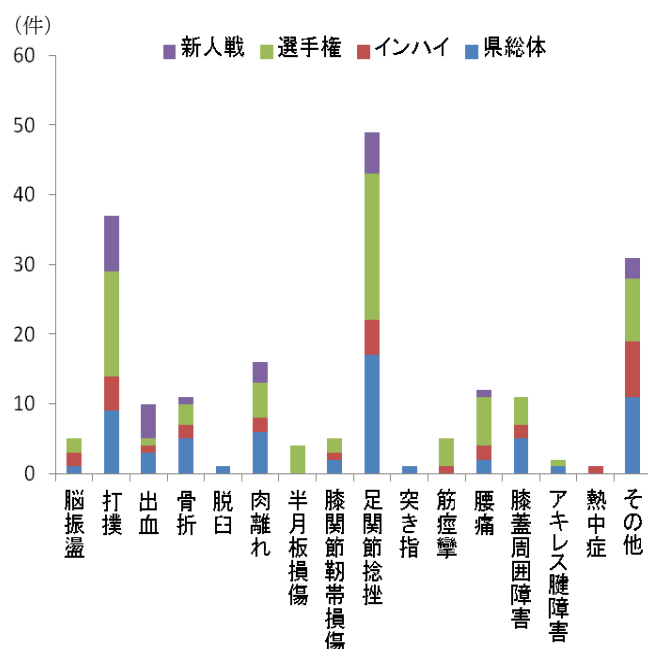


図 12. 傷害内容別対応件数 (件)

3) 受傷機転

傷害総数 201 件中、外傷による受傷は 130 件 (65%)、Overuse による受傷は 48 件 (24%)、不明が 23 件 (11%) で外傷が最も多かった (表 13)。

また、傷害部位別でみると、対応件数が多かった足関節や膝関節といった下肢において、外傷が多い結果となった (図 13)。

表 13. 受傷機転別対応件数 (件)

	外傷	Overuse	不明	計
県総体	44	10	10	64
インハイ	19	9	4	32
選手権	46	24	8	78
新人戦	21	5	1	27
計	130	48	23	201

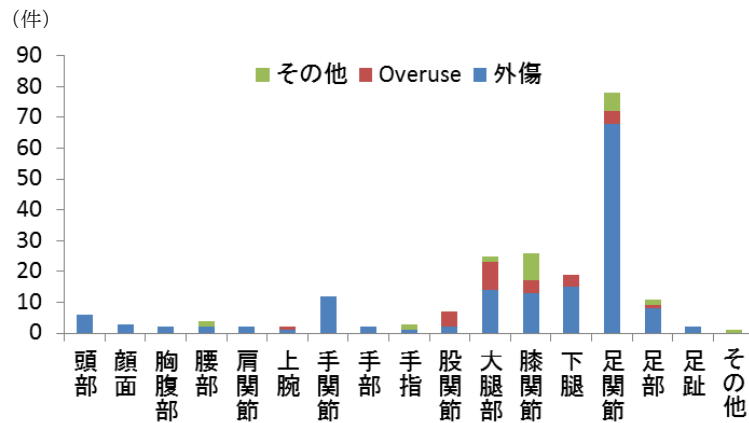


図 13. 受傷機転による傷害部位別対応件数

4) サポート内容

対応時期として、対応総数 353 件中、試合前が 149 件（42%）と最も多く、次いで試合後が 127 件（36%）、試合中が 72 件（20%）であった。ハーフタイムでの対応は 5 件（2%）と少数であった（表 14）。

対応内容として、対応総数 353 件中、テーピング実施が 133 件（38%）と最も多く、次いで傷害確認・指導が 64 件（18%）であった（表 15）。

対応時期別の対応内容としては、テーピング実施が試合前で最も多く、傷害確認・指導、アイシング指導は試合後で多かった（図 14）。

表 14. 対応時期別対応件数（件）

対応時期	県総体	インハイ	選手権	新人戦	計
試合前	48	23	62	16	149
試合中	23	12	25	12	72
ハーフタイム	3	1	1	0	5
試合後	27	21	56	23	127
計	101	57	144	51	353

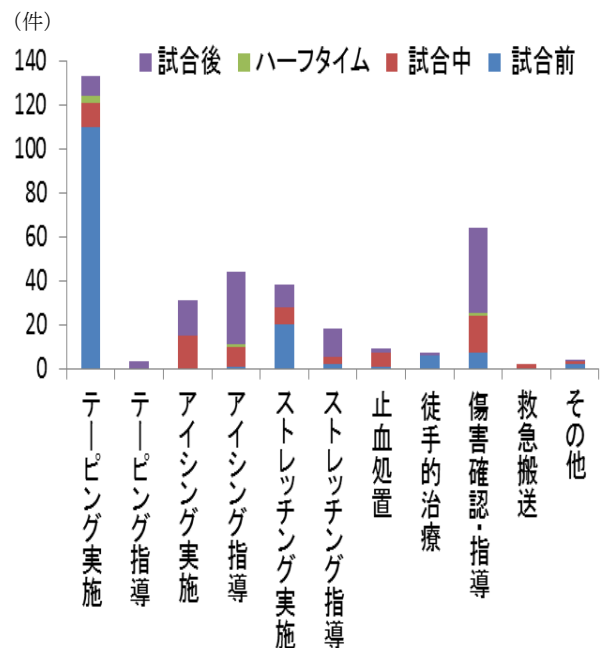


図 14. 対応時期別対応件数

表 15. 対応内容別対応件数

対応内容	県総体	インハイ	選手権	新人戦	計
テーピング実施	44	21	56	12	133
テーピング指導	1	0	0	2	3
アイシング実施	9	6	14	2	31
アイシング指導	15	5	12	12	44
ストレッチング実施	11	5	16	6	38
ストレッチング指導	2	6	6	4	18
止血処置	2	2	1	4	9
徒手的治疗	1	0	4	2	7
傷害確認・指導	14	9	34	7	64
救急搬送	1	1	0	0	2
その他	1	2	1	0	4
計	101	57	144	51	353

5) テーピング実施部位および目的

4 大会におけるテーピング対応は、133 件であった。その目的としては、症状緩和が 99 件（73%）と最も多く、次いで予防と応急処置が 15 件（11%）であった（表 16）。

テーピング部位としては、足関節が 43 件（32%）と最も多く、次いで膝関節が 23 件（17%）、大腿部が 15 件（11%）であった（図 15）。

(件)

表 16. テーピング目的別対応件数（件）

テーピング目的	県総体	インハイ	選手権	新人戦	計
予防	5	1	8	1	15
症状緩和	36	17	38	8	99
応急処置	2	2	8	3	15
修正・追加	1	0	2	0	3
その他	0	1	0	0	1
計	44	21	56	12	133

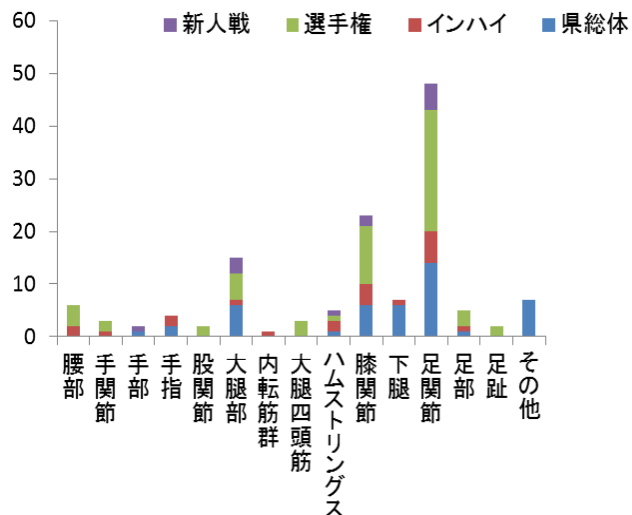


図 15. テーピング部位別対応件数（件）

6) まとめ

本年度は昨年度と同様、1～3 回戦において対応を実施した。

傷害部位および傷害内容について、傷害部位では足関節、膝関節が多く、傷害内容では足関節捻挫、打撲、肉離れが多かった。これは昨年度の結果と同様であり、サッカー競技において生じやすい傷害内容と同様の結果となった。メディカルサポート内容について、対応時期は試合前の対応が多く、症状緩和目的のテーピング実施が多かった。試合後では、傷害確認・指導やアイシング指導が多かった。このことから、メディカルサポートの対応において、外傷直後のケアは二次障害を予防する意味で重要であり、アイシングを指導する割合よりも実施する割合を増加させていくことが今後の課題であると考ええる。

本年度は、対応件数において昨年度を上回る結果となった。また、対応時期として試合前の対応が昨年度と比較し増加していることを踏まえると、メディカルサポートへの認識が高まり試合前より選手の対応依頼を頂けていることが考えられる。よって、今後も選手の対応依頼に対して十分に答えられるよう、メディカルスタッフの更なる充実化と質の向上を図っていくことが重要であると考ええる。